

2020年1月7日
山梨日日新聞

都留市の協会 エンジニア養成

移住者増へ就労支援

都留市の移住政策などに取り組む「生涯活躍のまち・つる推進協会」は、移住者の就労を支援するため、プログラミングの技術取得などを目的としたエンジニア養成講座を始めた。IT関連企業と連携し、ICT（情報通信技術）に関する知識を持った人材を育成する。

講座は、企業向けにIT関連の研修などを開いている。「富士通ラーニングメディア」（東京都）、ベンチャー企業「Citable」（都留市上谷3丁目）、協会の三者が連携

し、昨年11月から開講している。市が市内への移住促進事業に取り組み中で、「若者をはじめ、趣味などの活動に精力的で消費活動も旺盛な50〜60

代を呼び込むには、仕事を確保するための支援が重要」と協会と判断。多分野での応用が期待されるIT技術を身に付けることで、起業や就職する際の強みにしてもらおう。協会は「就職先は市外であっても、都留市で生活してもらおうことで人口増や活性化が期待できる」と説明する。

講座は、プログラム言語の「Java」（ジャバ）など

の取得を目指す「プログラミング」と、プログラムを人に

教えるための技術を学ぶ「ティーチング」の2種類。本年度はティーチングの講座のみで、来年度からは両講座を実施する。どちらも3カ月程度での修了を見込み、開講口以外にも技術取得をサポートする。

審査に合格すれば、富士通ラーニングメディアの講師として働くこともできる。4〜6月の期間採用だが、200万円前後の収入が得られるという。

現在は移住者ら3人がティーチングを学んでいる。費用はティーチングが11万円、プログラミングは20〜30万円を想定。一つだけの受講も可能。協会が講座を担当する伊藤洋平さん（36）は「講座を通じて、一人でも移住者が増えることに期待したい」と話している。